

# 九月の幼児生活

東京府女師附屬幼稚園

ト 部 た み

是は九月の保育日程表でもなく、保育細目でもなく、幼児がどんな生活をしてきたかといふ記録の一部分で御座います。

此の種の物は、どなたもが持つて居られるもので、個人的のものは特に文字の上だけでは保育實際の眞の情景とか、気分などは現はしにくい事として如何かと存じましたが、何か書いてみよとのお話故是によつて御指導を仰ぐ事に致しました。

幼稚園及小學校低學年の教育は、子供の生活そのものを教育的に指導して行く事が教育の全部であります。小學校低學年に於て、合科教育或は原始的學習又は末分科の教育等がとへられてゐま

すが、幼稚園の教育こそ全くそれであつて、むしろ小學校教育のそれよりも、もつと理想的のものであるべきと存じます。

保育の五項目を分科的に時間的に配當して取扱ふのでなしに、子供とともに遊んでゐる間に、所期の目的につき進めていかねばならないものと思ひます。従つて幼児の遊び即ち生活そのものが、保育の教材となるのであります。

左に記します表の九月の生活(主要材料)とは、教育的に取扱ふ主な生活事項を凡そ配列して置いて、いはゞ生活暦といふべきもので、大體是により教育を進めていくのであり、その次の表はその内年少組である一の組の生活記録であります。そ

の後に保育日誌から摘記いたします。

かう表はしても是は極く一般的东西のものでありまして、私共はいつも幼兒一人一人を教育してゐるものであります以上、各個人の要求する學習の題材が、時に臨み機に應じて殆ど豫期出來ない様な

ものが出てくるものである事を考へ、それに最も適當の處置方法をとる事が眞の保育即ち教育である事を忘れてはならないと存じます。それらを記録して保育の資料反省材料とする事も亦大切な事と思ひます。

(料材要主)活生の月九	幼 一 組	幼 二 組	尋 常 一 年
<p>○夏休中のおみやげ展覽會</p> <p>○夏休中のお話</p> <p>○水遊び、色々な遊び。</p> <p>○花壇の手入</p> <p>○九月生れ誕生會</p> <p>○二百十日廿日の事</p> <p>○虫干。彼岸。月見。</p> <p>○秋について、(衣服、帽子傘、町の變化)</p> <p>○秋として、其他(秋の田園、秋の日和、秋の草花、虫類渡鳥等)</p>	<p>○同上</p>	<p>○同上</p> <p>○なほ此の月は前に休暇中の教育的利用の爲めに與へた指導案様のものについて整理する事。</p> <p>休中の話會。</p> <p>休中の採集物、製作品等の展覽會。</p> <p>日記帳よみ「朗讀會」</p> <p>○又今學期に於ては第一學期に引續いて遊戲化としての取扱濃く表はる</p>	

さし樂の活生園稚幼

等

曜 週	第 一	第 二	第 三
1	<p>始業式 小學校庭 震祭記念式 式後遊戯室に於て休中の状況を話合ふ。 ピアノをきく又は唱歌遊戯をして楽しみあふ。</p>	<p>自由遊び(各運動具による、積木、本よみ、繪、談話等草取り) (雑草、虫類、蟬、休中に咲ける花等の觀察) お話「幼稚園が初まる」 幼児の話(休中の話) 落音器をきく。</p>	<p>雑草抜き、花園手入れ、夏休中のおみやげ(繪手技等)を室のまはりにならべしめる。 幼児のお話(休中のつゞき) 唱歌遊戯復習、</p>
2	<p>自由遊び(昨日の生活發表)(活。繪等による) 園外散步 傳通院銀杏寺附近 (蟬の聲をきく、蝶蜻蛉を追ふ) お月見の仕度のこと。</p>	<p>自由遊び(お月見の仕度に及ぶ)二の組を見て粘土に「イモ、ナス、瓜果等」を作る。 展覽會(於小學校)をみにいく。 唱歌遊戯(復習)月夜の兎 (一段新授)</p>	<p>自由遊び(お月見のかざり)(實物の果物、野菜を膳にそなへ薄、秋草をかざる)それらの觀察 繪をかくもの 自分の粘土をならべる お話「お月見の話」 唱、遊同前</p>
3	<p>自由遊び (砂場掃除、砂ならし、水遊び、笹舟作り) 談話(日曜の話) ボールさがし(楽曲により) 唱、遊同前</p>	<p>自由遊び 九月生れ誕生會の仕度のため繪、手工をせる二の組を見る、 粘土製作(自由) ボール投げ 唱、遊同前</p>	<p>二の組の手技をみて「家作り」に入る。 繪、切抜いて立てる お話「なかなかい鈴虫」 なく鈴虫のうたをきかしむ 唱、遊同前 自由遊び 砂場、蟻の幼虫の觀察、</p>
4	<p>自由遊び 折紙、切紙、積木 日曜の話 お彼岸の話、(繪と談話) お辨當の楽しみ、 籠まり、ボールさがし、 ジャンケン遊び等、 唱、遊、同前、</p>	<p>園外保育 大塚東京高師校庭小石川窪町小學校へ 山、池、樹木、花園、運動場、兒童生徒の運動、建物、設備、家畜鳥類、 其他の觀察、家畜鳥類、 (明日は秋季皇靈祭の事)</p>	<p>自由遊び 校内散歩(觀察) リレー 走幅とびのまね マラソン、バスケット お話「黒のお客様」 繪「お話の中の好きな動物」 唱、遊同前、他の練習、</p>

曜 週	第 四	第 五	第 六
1	自由遊び (雨曇、雨上り、日向葵、梨、桃、いちじく等の實の觀察) 談話(人形の旅行) 續いて繪に入る。 各兒の話(ついき)	自由遊び 水遊び、積木、手工、繪、まゝ事 校内散歩 (とんぼ、蟻其他の虫類、電線工事、板塀校舍等の修理)の觀察 スキップ練習、唱歌、遊戲	自由あそび 汽車ごっこ。 ボール遊び、 繪、(休中の事に關するもの)。 室にかざりし鑑賞。 唱歌遊戲の復習。
2	自由遊び、(砂場、まゝ事等) お話(月の井戸) ゆふべのお月様の話保母幼児語りあふ。繪にかくもあ り。紙にすするあり、手技に入る。凡ておみやげとす 久堅町通り祭禮の町觀察 (十月十一日) 祭禮氏神様の話 月夜の兎一段練習	鑓川神社參拜(祭禮の後の日) 近くのS家の庭園に遊ぶ、 虫類の其他の觀察 運動具類の使用 遊戲	自由遊び 展覽會を見にい く 歸りて繪にかく (人使畫汽車多し) 唱歌(月夜の兎二段) 遊戲(同上一段) 其の他の復習
3	自由遊びよりついでに昨日のついきの「家作り」をなす。 繪、切紙、キビガラ等 (一の組の製作をみる) 唱歌、 鈴なし鈴虫新授 其他同前	自由遊び (手技、小積木、誕生會開會) 挨拶、答禮、贈物(手技) 唱歌、談話、本讀み、遊戲等 自由遊び	自由遊び 水たまり、赤蜻蛉追ひ、赤とんぼ觀察 (自然科の話) とんぼ作り(キビガラ細工) 唱歌、 鈴なし鈴虫、 二の組の家かざりをみる お彼岸の話
4	散歩、 雨上り、曇、水たまり、日、雲、空等觀察 自由遊び 積木、電車遊び 汽車あそび切符作り、カバン作り 九月分身體検査	自由遊び 雨中の往來觀察 雨の日の通園について談話、 雨具雨衣着替競争、おくり迎(ごっこ) お話(雷様の大鼓) あらし、夕立の話 唱、遊、同前 (休中の思出はなし)	唱歌、遊戲、既習のもの練習、スキップ、 談話 秋の話、夏と秋、春と秋、九月終りの話、 自由遊び (同前)

右の表の上第一第二は曜日を表はし、右は1週  
2週を表はしてゐます。實際は五週目の二日程  
が、餘りますが紙面の都合上四週の中に書き込ん  
てしまひました。

× × ×

○日。午前八時の始業式に先だつて眞黒に日焼し  
た元氣よい幼兒達の顔久し振の「お早う。」「お早う  
ございます。」の聲に接した嬉しさ。二の組に比べ  
て一般に一の組は少々氣後れのした恥しさうな様  
子も見えたが、間もなく元氣も出て、遊戲室、遊  
び道具砂場ブランコ等なつかしいものゝ邊りは早  
速の大賑はひ。楽しいのんびりした比較的より自  
由な家庭生活の四十日を経て來た子達は、誰も  
く幼稚園のお友達との生活(相互生活)には不足  
を感じてゐたらしい。それが又當然であり幼稚園  
生活としての生命のある處を物語るものである。

主事の第二學期に對するお話は、幼兒ながらも

よく解つたらしい。

愈々第二學期は來た。輝かしい子供達の活動を  
見るにつけ、生氣ある新學期を迎へた愉快に胸も  
あどる。

○日。朝から蟬の聲が盛んに聞える。靴を穿きか  
へると早速思ひ／＼の活動が初まり、自らそこに  
興味分團が出来る。花壇或は庭に出て雜草をつむ  
もの室内で小さい積木の汽車其他に餘念ないも  
の、クレオンを出して休中にみた景色をかくもの、  
大い積木を遊戲室にかつぎまはるもの砂場に山や  
トンネルを作る者等様々である。

暫くの後自然に外に集つて大部分は雜草拔に加  
はる。一組M子T子の手つきの上手な事。雜草の  
間から跳ね出すバツタ、根切虫、大きないも虫を  
引いていく大勢の蟻等が又一段と觀察の興をそそ  
る。この組の元氣者のKさんは「僕にも見せて」  
いふより先きに、蟬の抜け空も、てんとう虫もつ

かみつぶす。地虫に觀入るUさんの態度の眞剣な事。砂場に出た豆の芽生えを小さい鉢に寫し植ゑるS子さんの心づかひよ。

觀察は觀察のために觀察といふ方式を作るのではなく、凡て遊びの間にあらゆる機會に自然に有力に行はるべきものと思ふ。そして事物に對する心の眼を見開らかせる事が第一である。正確な經驗を與へたい。兎角物を見せるとしても、只漠然と意義なしに終るか、又は形式一篇に皮想的に、或は所謂理科教授式になり易い。子供個人々々の心の自由な伸び方を助長させ、正しい陶冶をするといふも、第一に指導者該人にある事を熟々感じ反省するのである。

○日。休中のお話會は今日も引續き遊戲室にひらく。交る／＼出て話す。或はその場で立つて笑ひ乍ら語る。小さい拍手がなる。概して一組の斷片的な短い話に對して二組の比較的まとりあるのに、

兩組の發達程度の現はれを知つて面白い。

○日。二の組は誕生會の仕度及び贈物作りで切紙折紙はり繪其他の仕事に餘念ない。それを見て一組も粘土で好きなものを作り出した。凡ての仕事が命ぜられた爲めてなしに、お月見の仕度或は誕生會等幼兒の生活のプランをたてその必要から生み出され、そこに動きが起る。幼い一の組も大きい組に交つて知らず／＼その態度に染つていくのがたのしい。

○日。二組のは數日前から各兒思ひ／＼の家作りをしてゐたが、一組の平面的なのに對して立體的なのが一層進んでみえる。今日は殆ど色々の彩色した様々の形の家が出来上つた。大ていは家としての一つの製作が終れば是て仕事の完成としてお土産に持ちかへらせたものであつた。一寸與へた保姆の暗示は忽ち「家作り」から發展して「町作り」「都會作り」になつた。一同室の眞中に机を集め、

ここに販ふ。一組の三四人以外はお客様専門なのに對し二組の遊び方の組織だつてきたのに氣附く。切符賣、停車場作りの間に出てくる文字、數字、數觀念の扱ひも意をもちひ、あやまらざる指導方法をとるべき大切な事である。

(後略)

廣い地面を想定したらしい。道をかく。茶色にぬる。そこへめい／＼が家をならべる／＼。軒並をそろへた西洋館。こゝは露路。こゝは大通り。「やあ電車を作らう。「僕は自動車。「僕電車センロ。「あたしは人。「こんどは木がほしいてせう」「え、先生どうやつて作るの?」かくて又次々の仕事は生活活動はつきない。一同手をあいた時にこ／＼と周りに集つる。Kちやん曰く。「やあ随分世の中が發達したもんだなあ。「保姆も此の言葉に思はずびつくりさせられた。おそらく眞の悦びの聲であつたらう。「是は畫用紙ですが、こんどする時は茶ボールでしてみませう。「ええ／＼。」と一同大喜びやがてめい／＼の組へ迎ひにいつて發達した世の中の紹介に及ぶ。

○日 お辨當のたのしさ待ち遠しさは、いつの子供もかはりはない。思ひ出す度に催促するやらバスケツトを持ちあるく。午後汽車ごつこ電車ごつ